

科目名	応用運動学						
担当講師	高橋 正基						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

運動が与える各器官への影響を学び、運動生理学の観点から人の運動の理解を深める。
運動学習と運動技能について理解を深める。

学修到達目標

1. 運動と各器官との関連を述べることができる。
2. 運動と動作の分析をまとめ、その内容を述べるができる。
3. 運動学習と運動技能について述べるができる。

授 業 計 画

- 第1回 筋線維の種類とその特徴、筋の収縮様式と筋力
- 第2回 神経系の役割について（中枢神経系・末梢神経系・運動調節）
- 第3回 神経系の役割について（中枢神経系・末梢神経系・運動調節）
- 第4回 神経系の役割について（中枢神経系・末梢神経系・運動調節）
- 第5回 運動と呼吸器系への影響
- 第6回 運動と呼吸器系への影響
- 第7回 運動と循環器系への影響
- 第8回 運動と循環器系への影響
- 第9回 運動と体温調節への影響
- 第10回 運動と腎機能への影響
- 第11回 栄養とエネルギー代謝
- 第12回 運動と動作の分析
- 第13回 体力と運動処方
- 第14回 運動学習
- 第15回 運動学習

評価方法

筆記試験 100%（中間試験（50%） 期末試験（50%））

教科書

基礎運動学（医歯薬出版） エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂）

参考図書・文献

標準理学療法学・作業療法学 運動学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

科目名	臨床医学総論						
担当講師	星川 浩一 中村 浩昭 井上 義博 鈴木 泰 河嶋 寛 西島 光茂						
実務経験の概要	星川 浩一 : 医師 病院にて、総合診療科医師として実務経験を有する。 中村 浩昭 : 医師 病院にて、皮膚科医師として実務経験を有する。 井上 義博 : 医師 病院にて、内科医師として実務経験を有する。 鈴木 泰 : 医師 病院にて、内科医師として実務経験を有する。 河嶋 寛 : 医師 病院にて、耳鼻咽喉科医師として実務経験を有する。 西島 光茂 : 医師 病院にて、産婦人科医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

臨床医学総論ではリハビリテーションを学ぶ療法士としては専門領域の技術の修得に加えて一般医学の知識を学ぶものである。臨床医学概論で学んだ基本的な事項をもとに、産婦人科疾患(生殖器系)、耳鼻咽喉科疾患、眼疾患、皮膚疾患の領域においてみられる主な疾患の概要を理解する。

学修到達目標

1. 内科・外科系疾患の診療の流れを理解できる。
2. 一般診療以外の医学に関する知識を身につけることができる。
3. 理学療法・作業療法に関わりの少ない疾患に関する理解を深めることができる。

授 業 計 画

第1回	救急救命医学	星川浩一
第2回	外科総論(感染症含む)	星川浩一
第3回	脳神経外科概論	星川浩一
第4回	皮膚疾患	中村浩昭
第5回	眼疾患	鈴木泰
第6回	老年医学	井上義博
第7回	婦人科・産科疾患	西島光茂
第8回	耳鼻咽喉科疾患	河嶋寛

評価方法

筆記試験(マークシート) 100% で評価する。

教科書

PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版(医歯薬出版)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	外科学						
担当講師	佐藤 修						
実務経験の概要	救急救命士 消防本部、救急救命士養成教育施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義 実技						

授業概要

外科学とは、手術によって創傷や疾患を治療する臨床医学の一分野である。外科的治療を必要とする疾患は多岐にわたるが、リハビリテーション職種には外傷を含め、緊急時に的確な対応をするスキルが求められる。本科目では、外科学における基本的知識を教授するとともに、緊急を要する病態や外傷に対する対応について学修する。

学修到達目標

1. 外科学の基本的知識について説明できる
2. 緊急時に必要な対応について説明できる
3. 緊急時に求められる対応について習得する

授 業 計 画

- 第1回 外科学総論
- 第2回 救急医療体制（救急医療機関・トリアージ・救急車の利用法）
- 第3回 応急手当の基礎と実践1（止血法・外傷の応急手当）
- 第4回 応急手当の基礎と実践2（特殊な疾患とその応急手当）
- 第5回 応急手当の基礎と実践3（運搬方法）
- 第6回 救命処置の基礎と実践1（心肺蘇生法）
- 第7回 救命処置の基礎と実践2（AEDによる除細動）
- 第8回 救命処置の基礎と実践3（気道異物除去）

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

特になし

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

科目名	病理学						
担当講師	佐藤 孝 阿保 亜紀子						
実務経験の概要	佐藤 孝 : 医師 病院にて、病理学医師として実務経験を有する。 阿保 亜紀子 : 医師 病院にて、病理学医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響などをスライドやテキスト、レジメを用いて学習する。

学修到達目標

1. 病因論（内因・外因）について理解する。
2. 病理学的変化（血行障害、進行性・退行性病変、炎症・感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を含む）について理解する。
3. 生体反応（ホメオスターシス、ストレス）について理解する。

授 業 計 画

第1回	病理学で学ぶこと	佐藤孝
第2回	細胞・組織の障害と修復	佐藤孝
第3回	炎症と免疫	阿保亜紀子
第4回	アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	阿保亜紀子
第5回	循環障害①	佐藤孝
第6回	循環障害②	佐藤孝
第7回	感染症①	阿保亜紀子
第8回	感染症②、老化と死	阿保亜紀子
第9回	先天異常と遺伝子異常①	阿保亜紀子
第10回	先天異常と遺伝子異常②	阿保亜紀子
第11回	代謝障害（脂質代謝、タンパク質代謝）	佐藤孝
第12回	代謝障害（糖質、その他の代謝障害）	佐藤孝
第13回	腫瘍（概論）	阿保亜紀子
第14回	腫瘍（各論）	阿保亜紀子
第15回	まとめ	阿保亜紀子

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

病名を聞いたら、その病気の原因は何なのか、どのような病態なのかイメージできるようになることを目標に学習(予習・復習)する。

科目名	臨床心理学						
担当講師	遠藤 麻友美						
実務経験の概要	臨床心理士 カウンセリング等、実務経験を有する						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

臨床心理学は、「人間の行動の適応調整や人格的成長を促進し、不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、問題を軽減・解消することを目指す学問」です。この講義では、臨床心理学の入門コースとして、その対象、アセスメント、および介入法について学びます。グループ演習形式で発表を行いながら、効果的に学びます。

学修到達目標

1. 臨床心理の基礎となる歴史、防衛機制と転移、学習、記憶、行動について理解する。
2. 発達に沿った心理とその心理療法について理解する。
 - (1) 児童・青年期心理、成人高齢者心理、患者・障害者心理について理解する。
 - (2) 臨床心理検査法、心理療法およびカウンセリングについて理解する。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------|
| 第1回 | 臨床心理学とは何か |
| 第2回 | 臨床心理学的臨床の実際 |
| 第3回 | 臨床心理学の対象1 |
| 第4回 | 臨床心理学の対象2 |
| 第5回 | 臨床心理学の対象3 |
| 第6回 | 臨床心理学の対象4 |
| 第7回 | 臨床心理学的アセスメント1 |
| 第8回 | 臨床心理学的アセスメント2 |
| 第9回 | 臨床心理学的アセスメント3 |
| 第10回 | 臨床心理学的介入法1 |
| 第11回 | 臨床心理学的介入法2 |
| 第12回 | 臨床心理学的介入法3 |
| 第13回 | 臨床心理学的介入法4 |
| 第14回 | 臨床心理学的介入法5 |
| 第15回 | 社会的専門性と連携、まとめ |

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

面白いほどよくわかる 臨床心理学

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学びます。予習・復習をして概要を理解しましょう。

科目名	整形外科学						
担当講師	古町 克郎 佐藤 光太郎 岩手医科大学医学部整形外科学講座医師 竹田 敦子						
実務経験の概要	古町 克郎 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 佐藤 光太郎 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 岩手医科大学医学部整形外科学講座医師 : 医師 病院にて、整形外科医師として実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士 医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	前後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

整形外科領域における疾患の特徴について理解を深めるために、骨関節障害を中心とした運動器障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

学修到達目標

- 疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他の治療について理解する。
- 骨関節疾患等（一部神経疾患含む）の一般的疾患について理解する。（変形性関節症、人工関節置換術後、骨折、脱臼、靭帯損傷、関節リウマチ、スポーツ障害、脊椎疾患、腰痛症、切断、関節疾患、骨粗鬆症骨壊死性疾患、先天異常、系統疾患、骨軟部腫瘍）

授 業 計 画

第1回	【前期】	歴史、骨・軟骨の生理学	古町克郎
第2回		骨折	古町克郎
第3回		整形外科的診断学	古町克郎
第4回		整形外科的治療法	古町克郎
第5回		肘、末梢神経	佐藤光太郎
第6回		手、前腕	佐藤光太郎
第7回	【後期】	整形外科学各論 脊椎・脊髄疾患1	講座医師
第8回		脊椎・脊髄疾患2	講座医師
第9回		股関節疾患	講座医師
第10回		関節リウマチ、脊椎関節炎、腱付着部炎	講座医師
第11回		スポーツ外科、膝関節疾患	講座医師
第12回		外傷、肩関節疾患	講座医師
第13回		軟部腫瘍	講座医師
第14回		骨腫瘍	講座医師
第15回		切断、足部疾患	講座医師
第16回		整形外科疾患の基礎・復習学習1	竹田敦子
第17回		整形外科疾患の基礎・復習学習2	竹田敦子
第18回		整形外科疾患の基礎・復習学習3	竹田敦子
第19回		整形外科疾患の基礎・復習学習4	竹田敦子
第20回		整形外科疾患の基礎・復習学習5	竹田敦子
第21回		整形外科疾患の基礎・復習学習6	竹田敦子
第22回		整形外科疾患の基礎・復習学習7	竹田敦子
第23回		整形外科疾患の基礎・復習学習8	竹田敦子

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

標準整形外科学 第14版（医学書院）

参考図書・文献

神中整形外科（南山堂） 骨軟部疾患の画像診断 第2版（秀潤社） CT・MRIによる骨関節の機能解剖（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖生理を確認しながら予習復習を通して基礎学習することを勧めます。

科目名	神経内科学						
担当講師	岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野医師（岩岡和博 他）						
実務経験の概要	岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野医師（岩岡和博 他） ：医師 病院にて、神経内科医師として実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	前後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

神経障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。中枢神経や末梢神経の機能や構造を理解し、それらが障害されることで発生する症状や病態について理解する。また、各種疾患に対する医学的治療や経過予後について理解を深める。

学修到達目標

1. 神経内科学における疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他の治療について説明できる。
2. 中枢神経疾患の一般的疾患について説明できる。
(脳血管障害、感染・炎症性疾患、神経変性疾患、神経免疫疾患、外傷、腫瘍、てんかん、視覚・聴覚障害)
3. 末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる。(筋疾患・神経接合部疾患、外傷、腫瘍)

授業計画

第1回	【前期】	総論/神経診断学/症候学1
第2回		疾患総論/神経診断学/症候学2
第3回		疾患総論/神経診断学/症候学3
第4回		疾患総論/神経診断学/症候学4
第5回		脳血管障害1
第6回		脳血管障害2
第7回		脳腫瘍
第8回		感染症
第9回		外傷・自律神経・機能性疾患1
第10回		外傷・自律神経・機能性疾患2
第11回		先天性疾患
第12回		脊髄疾患
第13回	【後期】	変性疾患1
第14回		変性疾患2
第15回		末梢神経障害1
第16回		末梢神経障害2
第17回		筋疾患・筋接合部疾患1
第18回		筋疾患・筋接合部疾患2
第19回		脱髄疾患
第20回		代謝・中毒性筋疾患
第21回		認知症1
第22回		認知症2
第23回		総括講義(国家試験頻出疾患など)

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

神経内科学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

各講師が話すポイントを理解することが重要です。丸暗記の教科だと誤解している学生がいますが、暗記するのではなく、理解することが重要です。

科目名	内科学						
担当講師	鈴木 泰 井上 義博 鈴木 啓二朗 足澤 美樹 高橋 進 安田 有子						
実務経験の概要	鈴木 泰 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 井上 義博 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 鈴木 啓二 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 足澤 美樹 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 高橋 進 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。 安田 有子 : 医師 病院にて、内科医師としての実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を理解する。

【消化器疾患】成人における消化管・肝・胆・膵疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療について系統的に学び、消化器病学の基礎知識を修得するのが目的です。パワーポイントを使っての説明が主になります。

【代謝疾患】内科疾患のうち、主に生活習慣病に分類される代表的疾患について学んでいきます。

【血液・免疫疾患】血液免疫疾患の概要を学習します。

【循環器疾患】循環器疾患の概要を学習します。

【呼吸器疾患】呼吸器全般、特に呼吸生理学について概説します。

【内分泌疾患】病気の起こり方と成り立ちを中心にし、わかりやすい授業を目指します。

学修到達目標

1. 疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他の治療について説明できる。
2. 消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌・代謝系疾患、腎・泌尿器疾患、血液・自己免疫疾患の概要と治療法について説明できる。

授業計画

第1回	【消化器疾患】	消化管疾患総論・食道・胃の疾患	井上義博
第2回		大腸の疾患・肝臓疾患基礎	井上義博
第3回		肝臓疾患・胆嚢・膵臓の疾患	井上義博
第4回	【代謝疾患】	代謝疾患総論	鈴木泰
第5回		糖尿病の病態・合併症	鈴木泰
第6回		糖尿病の治療	鈴木泰
第7回		高脂血症・痛風・肥満	鈴木泰
第8回	【腎疾患】	解剖と生理	鈴木泰
第9回		腎不全	鈴木泰
第10回	【血液・免疫疾患】	血液・造血管器疾患	鈴木啓二朗
第11回		免疫学・アレルギー・膠原病	鈴木啓二朗
第12回	【循環器疾患】	解剖と生理・診断法	足澤美樹
第13回		心不全・虚血性心疾患	足澤美樹
第14回		心筋疾患・心臓弁膜症	足澤美樹
第15回		先天性心疾患・感染性心内膜炎・心膜炎	足澤美樹
第16回		不整脈	足澤美樹
第17回		高血圧症	足澤美樹
第18回	【呼吸器疾患】	解剖と生理・呼吸機能検査	高橋進
第19回		肺感染症・アレルギー性肺疾患	高橋進

第20回		閉塞性・拘束性換気障害	高橋進
第21回		肺循環障害・肺腫瘍・胸膜疾患	高橋進
第22回	【内分泌疾患】	解剖と生理	安田有子
第23回		内分泌疾患	安田有子

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（第1回試験（50%） 第2回試験（50%））

教科書

メディカルスタッフのための内科学（医学出版社）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

[循環器・代謝疾患] 講義受講前に教科書を読んで講義に臨んで下さい。[内分泌疾患] 内分泌学はホルモン名に略語が使われますので、両方を覚えて授業に臨んでほしい。[消化器疾患] 限られた時間ですので、消化管・肝の解剖学と生理学を復習し、教科書には目を通してきて下さい。

科目名	精神医学						
担当講師	肥田 篤彦						
実務経験の概要	医師 病院にて精神科医師として実務経験を有する						
履修年次	2	単位数	2	時間数	60	開講時期	前後期
授業形態	講義						

授業概要

講義を通し、①精神症状について理解を深め、②ある程度の鑑別疾患を挙げることができ、③その疾患が内因性、外因性のいずれかの障害によるものかを理解することを目標とする。そして、④将来実践の場において、それらの疾患患者への援助や精神的アプローチが適切にできることを目指す。講義の内容として、精神障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学びます。

学修到達目標

- 疫学、予後、病因、症候、評価、検査、診断、リハビリテーション医療、その他治療について説明できる。
- 精神障害の一般的疾患について説明できる。
(器質性精神病、精神作用物質しよによる精神および行動の障害、統合失調症および行動の障害、統合失調症及び妄想性障害、気分障害、神経症性障害、生理的障害及び身体的要因に関連した行動障害、成人パーソナリティー及び行動の障害、心理的発達の障害、小児及び青年期に発症する行動及び情動の障害、てんかんなど)

授 業 計 画

第1回	【前期】	総論「精神医学の歴史と精神疾患の原因と分類」
第2回		総論「精神科症状学①」
第3回		総論「精神科症状学②」
第4回		総論「精神科症状学③」
第5回		総論「精神科症状学④」
第6回		総論「精神医学的検査」
第7回		各論「身体因性精神病」
第8回		各論「認知症とその周辺疾患」
第9回		各論「知的障害・てんかん」
第10回		各論「アルコール依存症・精神科治療学」
第11回	【後期】	各論「統合失調症①」
第12回		各論「統合失調症②」
第13回		各論「統合失調症③」
第14回		各論「気分障害①」
第15回		各論「気分障害②」
第16回		各論「神経症①」
第17回		各論「神経症②」
第18回		各論「発達精神医学①」
第19回		各論「発達精神医学②」
第20回		各論「人格障害・法と精神医学」

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。（前期末試験（50%） 後期末試験（50%））

教科書

精神神経疾患ビジュアルブック（学研メディカル秀潤社）

参考図書・文献

現代臨床精神医学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	小児科学						
担当講師	土屋 繁国 鈴木 幸之介						
実務経験の概要	土屋 繁国 : 医師 病院にて小児科医師として実務経験を有する 鈴木 幸之介 : 医師 病院にて小児科医師として実務経験を有する						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

小児科の一般的な疾患および小児リハビリテーションに必要な各疾患の特徴を理解することを目的とし、病因や病態生理、症候、診断、治療を学びます。

学修到達目標

1. 小児疾患の疫学、病因、病態、症候、診断、評価、検査、リハビリテーション医療、救命救急、その他の治療について説明できる。
2. 小児の正常発達、異常発達を理解し、それらの違いを説明できる。

授 業 計 画

- 第1回 総論
- 第2回 解剖・生理（小児の成長、大人と子どもの違い）
- 第3回 発達（Keyとなる月齢・年齢での反射・発達、発達評価）
- 第4回 新生児（新生児の特徴的な疾患・病態、早産児）
- 第5回 呼吸器（気道の解剖、上気道疾患、下気道疾患）
- 第6回 感染症（細菌とウイルスの違い、各疾患の原因と病原体）
- 第7回 循環器、消化器（解剖・機能、疾患の診断・治療）
- 第8回 神経・筋疾患（各疾患の診断と治療、けいれん・てんかん・二分脊椎など）
- 第9回 血液・アレルギー・免疫（貧血の種類、白血病の種類や症状、免疫疾患、アレルギーの症状）
- 第10回 内分泌・栄養（視床下部・下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎ホルモン、栄養障害、ビタミン障害）
- 第11回 代謝・腎（糖尿病の種類、低血糖症、腎臓の解剖、ネフローゼ症候群、尿路疾患）
- 第12回 遺伝子（染色体・遺伝子のしくみ、染色体異常）
- 第13回 腫瘍・救急・外科（小児がん※白血病を除く、心肺蘇生、事故：外傷・溺水、誤飲・誤嚥）
- 第14回 精神・心身症（発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、チック、神経性食思不振、自尊心）
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（マークシート） 100% で評価する。

教科書

看護学入門 母子看護（メヂカルフレンド社）

参考図書・文献

標準小児科学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

小児は全身にわたる疾患をみえています。範囲が非常に広いので、講義中に示すポイントを把握するようにして下さい。また、幅広い科目であり予習復習にて講義内容を確認することを勧めます。

科目名	リハビリテーション医学						
担当講師	西村 行秀 古町 克郎 大井 清文 佐藤 義朝 田中 弘美						
実務経験の概要	西村 行秀 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 古町 克郎 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 大井 清文 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 佐藤 義朝 : 医師 病院にて、リハビリテーション医師として実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

リハビリテーション医療の概要とそれに関わる対象疾患の病態について学ぶ。また、リハビリテーション医療において必要な障害の評価や治療について学ぶ。

学修到達目標

1. リハビリテーション医学医療の概念、リハビリテーション診断、評価、治療について説明できる。
2. リハビリテーションの対象となる疾患による障害とリハビリテーションの課程について理解できる。

授業計画

第1回	リハビリテーション医学 概要① (理念、定義、特徴)	西村行秀
第2回	リハビリテーション医学 概要② (診断 治療)	西村行秀
第3回	地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション	大井清文
第4回	疾患別 運動の基礎、骨関節疾患	古町克郎
第5回	疾患別 末梢神経損傷	古町克郎
第6回	疾患別 関節リウマチ	古町克郎
第7回	疾患別 切断・義肢装具	古町克郎
第8回	疾患別 脊髄損傷	古町克郎
第9回	疾患別 脳血管障害①	大井清文
第10回	疾患別 脳血管障害②	大井清文
第11回	疾患別 パーキンソン病	大井清文
第12回	疾患別 神経筋疾患: 筋萎縮性側索硬化症、その他	佐藤義朝
第13回	疾患別 神経筋疾患: 筋ジストロフィー症、その他	佐藤義朝
第14回	疾患別 呼吸器疾患 循環器疾患	佐藤義朝
第15回	疾患別 小児神経疾患: 脳性麻痺・二分脊椎	田中弘美

評価方法

筆記試験 (マークシート) 100% で評価する。

教科書

総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキスト (日本リハビリテーション医学教育推進機構)

参考図書・文献

現代リハビリテーション医学 (金原出版) ・標準リハビリテーション医学(医学書院) 、講義の中で紹介

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)



科目名	摂食嚥下学						
担当講師	山川 志野						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義 演習						

授業概要

摂食嚥下に関する構造と機能を学ぶ。
摂食嚥下障害の原因や病態像、それに伴う評価やリハビリテーションについて学ぶ。

学修到達目標

1. 摂食嚥下に関する解剖、生理、メカニズムを説明できる。
2. 摂食嚥下障害の原因、病態を説明できる。
3. 摂食嚥下障害の評価、リハビリテーションの概要について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 摂食嚥下とは何か（咀嚼・嚥下・摂食について）。口腔・咽頭・食道・歯・顎・顔面の構造と機能 |
| 第2回 | 咀嚼・嚥下とは何か（メカニズム・神経性制御機構について） |
| 第3回 | 摂食嚥下障害の原因（中枢・末梢・神経筋疾患、加齢などによる摂食嚥下機能低下について） |
| 第4回 | 摂食嚥下障害の病態（摂食嚥下障害の症状・誤嚥の種類について） |
| 第5回 | 摂食嚥下障害の評価（観察・面接・視診・触診・嚥下造影検査） |
| 第6回 | 摂食嚥下障害の評価（スクリーニング検査：反復唾液誤嚥テスト、改訂水飲みテストなど） |
| 第7回 | 摂食嚥下障害のリハビリテーション 間接訓練：筋再教育訓練、感覚受容向上訓練など |
| 第8回 | 摂食嚥下障害のリハビリテーション 直接訓練：K-point刺激法、呼吸・発声・構音訓練など |

評価方法

筆記試験（80％） レポート（20％）

教科書

よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版（医歯薬出版）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

科目名	公衆衛生学						
担当講師	高梨 信之 岡崎 謙治						
実務経験の概要	高梨 信之 : 作業療法士 病院、介護保険関連施設にて、身体障害領域における実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士 病院、介護保険関連施設にて、精神障害領域における実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

公衆衛生学とは新生児から高齢者まで、健康な人も病気を抱えている人も、社会で生活するすべての人々を対象とした、身体的・精神的・社会的健康を守り増進するための考え方、社会制度、地域での実践を学習します。

学修到達目標

1. 健康の概念を理解できる。
2. 疫学研究の概略を理解できる。
3. 我が国の保健医療福祉の施策について理解できる。
4. 障がい者・高齢者・母子等、あらゆる世代への保健推進を理解できる。
5. 地域で実践する保健活動を理解できる。

授業計画

第1回	公衆衛生学の基礎（健康の概念、予防医学の概念、公衆衛生の役割）	高梨信之
第2回	公衆衛生学の基礎（研究方法、疫学研究についての理解、人口統計の考え方）	高梨信之
第3回	保健医療福祉（健康日本21、生活習慣病、地域で実践する健康づくり）	高梨信之
第4回	地域づくりと公衆衛生	高梨信之
第5回	地域保健（介護予防や地域福祉）	高梨信之
第6回	障がい者福祉、高齢者福祉	高梨信之
第7回	母子保健、学校保健	高梨信之
第8回	産業保険、精神保健	高梨信之
第9回	公衆衛生におけるEBMの実践① 疫学研究のデザイン化	岡崎謙治
第10回	公衆衛生におけるEBMの実践② 検査の指標とスクリーニングの持つ意味	岡崎謙治
第11回	公衆衛生におけるEBMの実践③ 保健統計 社会環境の変動の理解、 人口静態統計、人口動態統計の理解	岡崎謙治
第12回	作業療法における予防医学の実践（予防医学の概念、集団に働きかける方法、 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）	岡崎謙治
第13回	作業療法における公衆衛生①行動変容と意識変容	岡崎謙治
第14回	作業療法における公衆衛生②地域保健における役割	岡崎謙治
第15回	まとめ	岡崎謙治

評価方法

高梨分：50%（期末試験（50%）、レポート評価（50%）） 岡崎分：50%（期末試験（60%）、レポート評価（40%））

教科書

シンプル衛生公衆衛生学 南山堂

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

現社会では「公衆衛生」「疫学調査」などについて、文献や新聞、インターネット等を通じ、取り上げられることが多くあります。保健医療福祉の社会情勢に則した学問が公衆衛生ですので、多くのメディアを活用した情報収集も行って下さい。